

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益 90-1

.....
ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943) 75-8055 FAX (0943) 75-8060

.....
部品、修理に関するお問合せは

東日本パーツ・サービスセンター

TEL (0270) 63-8201(代) FAX (0270) 63-8200

西日本パーツ・サービスセンター

TEL (0943) 75-3170(代) FAX (0943) 75-5861

連絡先控え(販売店名)

本書の無断転載、複写を禁止します。

フレールモーア

CG102

取扱説明書



▲ 警告

この取扱説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この取扱説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

CM80 3511 002


株式会社 筑水キャニコム




このたびはフレールモアをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

- ・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
- ・また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- ・本書では、安全上重要な事項を  で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・なお、この機械の品質・性能向上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

●機械の使用目的について

- ・機械は草刈作業に使用してください。
- ・この作業以外には使用しないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）




このたびはフレールモアをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

- ・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
- ・また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械と一しょにお渡しください。
- ・本書では、安全上重要な事項を(⚠)で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

 危険	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合は、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・なお、この機械の品質・性能向上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

●機械の使用目的について

- ・機械は草刈作業に使用してください。
- ・この作業以外には使用しないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象になりません。(詳細は保証書をご覧ください。)

こんなとき、こんなことが知りたいとき、 ここを見てください!

この取扱説明書は、次の通り構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで機械の正しい取り扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために、安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「仕様（装備）」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。よく理解して正しい操作をしてください。

運転のしかた エンジンを始動し、機械を動かすには？

毎日、運転する前に機械の調子を点検してください。
正しい手順で行い、エンジンの停止方法や安全装置の操作を体得してください。

作業のしかた 上手な刈取り作業をするには？

草刈作業の基本操作を説明しています。草の条件やほ場条件にあった機械の調整をして、草刈作業をしてください。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をつねに正常な状態に保つために、手入れのしかたについて説明しています。「定期点検整備表」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 機械を長期格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調、性能が低下している？と思ったらすぐに原因を調べて処置してください。処置が不明な場合は「お買いあげ先」にご相談してください。

付 表 関連部品は？

消耗部品等を一覧表で説明しています。

も く じ

安全作業のために ……(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1. 保証とサービスについて …… 1
2. 仕様 (装備) について …… 2
3. 用語について …… 3

各部のはたらき ……4

1. 各部の名称 …… 4

運転のしかた ……5

1. 運転まえの点検 …… 5
2. エンジンの始動と停止 …… 6
 1. エンジン始動のしかた …… 6
 2. エンジン停止のしかた …… 8
3. 発進・旋回・停車のしかた …… 9
 1. 発進のしかた …… 9
 2. 旋回のしかた …… 9
 3. 停車のしかた …… 10
4. 自動車への積み込み・積降ろし …… 11
 1. 自動車・アユミについて …… 11
 2. 機械の扱いかた …… 11

作業のしかた ……12

1. 作業まえの準備 …… 12
 1. 刈刃の取付け …… 12
 2. 刈高さの調整 …… 12
 3. ハンドル高さ調節 …… 12
 4. 消化器の取付け (オプション) …… 12
2. 作業のしかた …… 13
 1. 作業場への出入りのしかた …… 13
 2. 作業に適した速度の選びかた …… 13
 3. 前輪固定のしかた …… 13
 4. 上手な作業のしかた …… 14

手入れのしかた ……15

1. 定期点検整備 …… 15
2. 給油・注油のしかた …… 16
 1. 燃料の補給 …… 17
 2. エンジンオイルの点検・交換 …… 17
 3. エアクリーナのオイル補給 …… 17

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換 …… 18
5. 注油箇所 …… 18

3. 各部の点検と掃除のしかた …… 19

1. エアクリーナの掃除 …… 19
2. 燃料コックの掃除 …… 19
3. 点火プラグの点検と掃除 …… 19
4. リコイルスタータの掃除 …… 20
5. 燃料ホースの点検 …… 20
6. 前輪タイヤの点検 …… 20
7. クローラの点検・調整 …… 20
8. クローラの交換 …… 21
9. 転輪のオイルシールの点検 …… 21
10. ガイド (クローラ) の交換 …… 21
11. スタンドの取付かた …… 22
12. 刈刃の点検と交換 …… 22
13. 防護カバーの点検 …… 22
14. 刈刃カバーの掃除 …… 23
15. バッテリの点検 …… 23

4. 各部の点検と調整のしかた …… 25

1. 走行クラッチワイヤの調整 …… 25
2. 刈刃クラッチワイヤの調整 …… 26
3. エンジンコントロールワイヤの調整 …… 27
4. サイドクラッチワイヤの調整 …… 27
5. 駐車ブレーキワイヤの調整 …… 28
6. 刈刃ブレーキワイヤの調整 …… 29
7. 刈刃ベルトの点検・調整 …… 29

長期格納のしかた …… 30

1. 機械の掃除と洗浄 …… 30
2. エンジンの手入れ …… 31
3. 格納 …… 31
4. 再使用する時は …… 32

不調時の処置 …… 33

1. エンジン部 …… 33
2. 本機部 …… 35

付表 …… 36

1. 電気配線図 …… 36
2. 主な消耗部品と付属部品とオプション …… 37

(安全作業説明編)

安全作業のために

ページ

1. 安全作業のしかた……………(安-1)
2. 表示ラベルについて……………(安-6)

安全作業のために





1. 安全作業のしかた

- ・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の3段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。
- ・なお、この項で説明している安全説明はフレールモーア全般についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p>⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 酒気をおびた人 ● 妊娠している人 ● 16才未満の人 ● 指導者のいない運転未熟練者 ● 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により、正常な運転操作ができない人 <p>◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。</p>	<p>誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>今日は運転をやめておこう...</p>
<p>⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。</p>  <p>ヘルメット 身体に合ったもの 袖口すっきり スベリ止めのある足に合った靴</p>	<p>このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。</p>  <p>くわえタバコ 巻きタオル 腰タオル ゲタ、ゾウリ、はだし</p>
<p>⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合はこの取扱説明書も合わせて貸して、安全な作業ができるよう説明してください。</p> 	<p>借りた人が不慣れなため、思わぬ事故を引起こすことがあります。</p>



安全作業の



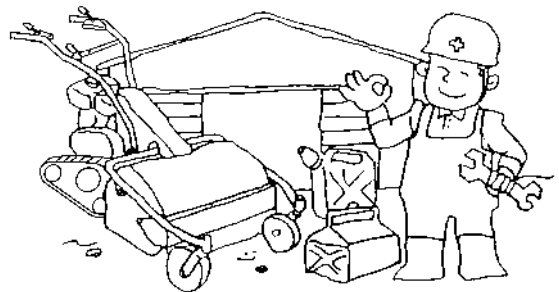
ポイント

- 取扱説明書、機械のラベルをよく読んでから安全を常に優先して運転する。
もし記載内容の指示に従わなかった場合は、機械の機能に悪影響を与えるだけでなく、人身事故の原因となることがあります。

始業・点検

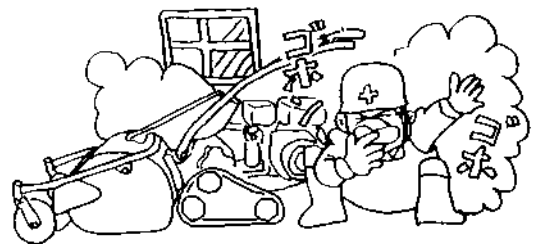
準備点検

- 平坦な場所で走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）にして、エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり、汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン、マフラ、燃料タンクの周囲を掃除する
- 電気配線の外皮のはがれや燃料もれを点検する
- 油量の点検はエンジンが冷えているときに行う
- クラッチ、レバー関係が確実に働くか点検する
- 燃料補給時はエンジンを停止し、火気を近づけない
- エンジンが熱いときは燃料補給しない
- 機械は改造しない



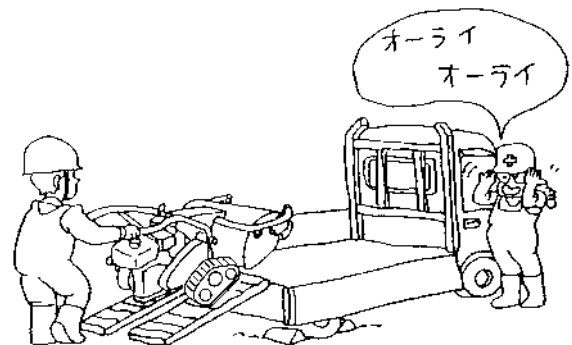
エンジン始動

- 始動前に全てのカバーを取付ける
- 変速レバーを《N》中立にし、走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーを《切》にする。
- 各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 周囲に障害物がないことを確認し、合図をして行う
- 機械の周囲から人を遠ざける
- 屋内で始動するときは、窓や戸を開けて換気をする



走行運転**自動車への積み・降ろし**

- アユミは、強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）、すべり止め、フックのあるものを使用する
- アユミは、自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し、機械の周囲に人を近づけない
- 積み込みは「作業1」積み降ろしは「後進」で低速で行う
- アユミの上での進路変更や変速操作をしない

**走行運転**

- 公道および夜間は自動車にのせて移動する
- 発進、旋回は周囲を確認して行う
- 刈刃を回転させたまま走行しない
- 人や物を機械にのせない
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進、急停車、急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

狭い農道、凸凹道路、坂道の走行

- 発進、旋回は低速で行う
- 速度を落として走行する
- 下り坂では速度を下げ、エンジンプレーキを使う
- 急な坂道では走行クラッチやサイドクラッチを切ったり変速操作をしない
- 対向車を避ける時等、端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない

**停車・駐車**

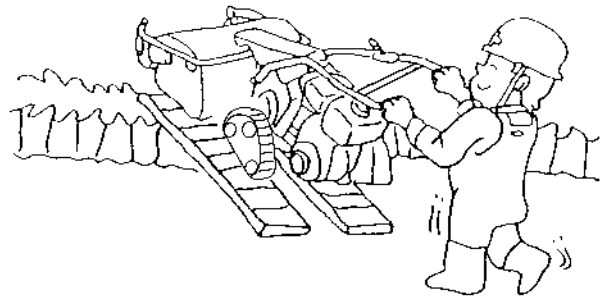
- 平坦な場所で走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）にして、エンジンを停止する
- 傾斜地では絶対に駐車しないでください

安全作業のために

草刈作業

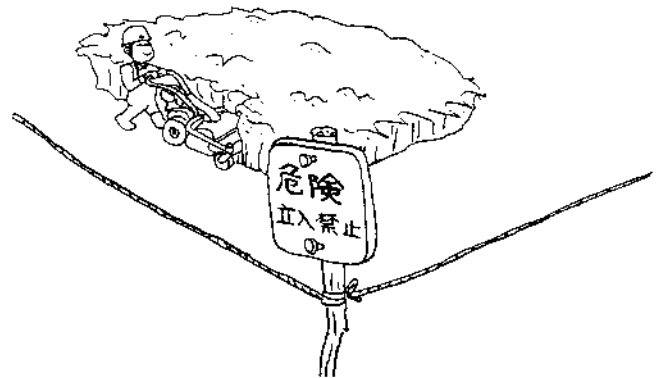
草刈作業場の出入り

- 変速は低速で、あぜに対して直角に行く
- あぜ、溝、急傾斜はアユミを使用し、上がるときは前進、降りるときは後進で足元を確認して行う
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う
- アユミの上では進路変更しない
- 刈刃を回転させたまま出入りしない



草刈作業

- 人、家畜、車、家などの近くでは作業はしない（限界接近距離 10m）また作業中は半径 10m 以内にこれらのものを近づけない
- 旋回時は周囲、足元を確認し低速で行う
- あぜ際では枕地に余裕をとって旋回する
- 長い草が生い茂っているなど前方の見通しが悪い場合は事前に石などの障害物を取除き安全確認をしてから作業を行う
- 後進するとき、エンジン回転を下げて背後の障害物がないことを確認して足元に注意し低速で行う
- この機械はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業や移動はしない
- 疲れを感じたら無理に作業を続けず休けいをする
- 刈刃カバー内に溜まった草や泥などを取り除く時はエンジンを停止し、平坦な場所で駐車ブレーキをかける



傾斜地での作業

- 25 度以上での急傾斜では横転の危険があるので作業しない（エンジンの故障の原因にもなります）
- 作業者は足場を確保するためスパイク靴等を使用して行う
- 凸凹及び石等があり機械の傾斜角が急に大きくなる場合があるので作業速度は低速で行う
- 作業は等高線に沿って行い旋回は傾斜角の緩い所で行う
- 前輪をピンで固定する



格 納

1日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）にして，エンジンを停止する
- 燃えやすい物の近くには止めない
- エンジン，マフラ，バッテリー，燃料タンクの周囲を掃除する



長期格納

- 1シーズンごとに定期点検をする
- 燃料タンク，燃料コック，気化器内の燃料を抜取る
- 平坦な場所に置きエンジンを停止し，クローラに歯止めをする
- シートカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なう
- バッテリアースコードを外すか，バッテリーを取外す



2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「お買いあげ先」に注文して購入し貼り替えてください。

④ 前方注意 + 安全確認

① 注意

急傾斜地で使用の際は、下記事項を必ず守って下さい。

1. 作業者は足場を確保するため、スパイク靴等を使用し、機械の下側での作業時間を少なく安全を確認して作業して下さい。
2. 急傾斜地では、作業前に穴、岩石、その他不法投棄物等がないことを確認してから、充分息をつけて作業して下さい。
3. 急傾斜地での作業作業は等高線列りで行い、旋回は出来るだけ傾斜角度の緩いところで行って下さい。
4. 25度以上の急傾斜地では横転の危険が高いため使用しないで下さい。
5. 補助者を使っている作業は、許容以上の急傾斜地まで入り横転の危険が増しますのでメーカーとして禁止します。

CM80 3608 000

③ 注意

・保護カバー、防護板は必ず取り付けて使用すること。
破損の場合は交換し、所定の位置に必ず取り付けてください。

CM80 3608 000

② 注意

1. 石、針金、棒切れ等の障害物がないことを確認してから作業して下さい。
2. 針金、ビニール等が刈刃軸に巻き付いた場合は、エンジンを停止させ刈刃回転が止まってから除去してください。
3. 刈刃が万一折損した場合は、刈刃軸バランスが狂い、振動が出て、機械が壊れるので、必ず刈刃を交換して下さい。
4. 刈刃の回転が十分上がってから作業して下さい。
5. 刈刃の回転が低いとエンストしたり、きれいに刈ることが出来ない場合があります。
6. エンジンの回転を十分に上げてから刈刃クラッチを入れてください。エンジンの回転が低いとエンストする場合があります。

CM80 3607 000

⑤ 警告

■後進する時は
●後方に障害物がないことを確認して下さい。

09603200014

⑨ 警告

振動による機械破損および傷害事故防止のために

- ・必ず作業前に刈刃取付け用のボルト、ゆるみ止めナットがゆるんでいないこと、また刈刃が破損、脱落していないことを点検してください。
- ・刈刃交換の際には、安全のためボルト、ゆるみ止めナットを一箱に交換してください。

CM80 3631 001

⑦ 警告

ケガや死亡事故を起こさないために

- 燃料補給・注油は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。
- 後進する時は、ハンドルをしっかり握り、後方を確認し低速で行なってください。

09603200048 新トラE

⑧ 注意

●カバーを取外したまま使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑩ 危険

■火気厳禁
■給油時エンジン停止

■無鉛ガソリン

09603000016

⑪ 警告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので換気の悪い所で使用しないでください。

⑪ 注意

●やけどをするのでマフラーにふれないでください。

09603200023

警告

●刈刃が回転している時は刈刃カバー内に手や足を入れないでください。

警告

●刈刃が回転しているときは、石などの異物の飛散により被害を与えて危険ですので、人、家畜、車、家などの近くでは作業をしないでください。

14693015000

No.	部品名称	部品番号	備考
①	チュウイラベル (ケイシャ)	CM80 3606 000	
②	チュウイラベル (カリハ)	CM80 3607 000	
③	チュウイラベル (カバー)	CM80 3608 000	
④	ゼンポウチュウイラベル	CM80 3609 000	
⑤	ケイコクラベル コウホウ	0960 3200 014	
⑥	ケイコクラベル	1469 3015 000	
⑦	ケイコクラベル ホトラE	0960 3200 048	
⑧	チュウイラベル カバー	0960 3100 017	
⑨	ケイコクラベル (カリハテンケン)	CM80 3631 001	
⑩	キケンラベル ガソリン	0960 3000 016	
⑪	キケンラベル ハイガス	0960 3200 023	

地球環境を守るために

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会(陸内協)が環境保全のために定めた排出ガス自主規制に適合しています。

この自主規制は、小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素(HC)、窒素酸化物(NO_x)、及び一酸化炭素(CO)を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバー等に貼付けています。



使用期間中は、次の事項を守ってください

1. 自主規制適合ラベルは剥がさないでください。
2. エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげ先」にご相談ください。

本エンジンは、排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

- ・この機械には保証書が添付されていますので、ご使用まえによくお読みください。
- ・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



型式名
機械番号（製造番号）

エンジン番号

・補修用部品の供給年限について

- ・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

- ・補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

- ・機械は草刈作業に使用してください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。



◆機械は草刈作業に使用してください。

◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

型	式	名	CG102 MC	
機 体 寸 法	全	長 (mm)	1800	
	全	幅 (mm)	1000	
	全	高 (mm)	1050 (レバー)	
	輪	距 (mm)	650	
装	備	重 量 (kg)	260	
エ ン ジ ン	名	称	GB300LE	
	型	式	空冷4サイクル傾斜形横軸 OHV	
	総	排 気 量 (cc)	295	
	定	格 出 力 (KW{PS}rpm)	5.5 {7.5} / 1800	
	最	大 出 力 (KW{PS})	7.3 {10.0}	
	使	用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃	料 タ ン ク 容 量 (L)	5.4	
始	動 方 式	手動 / セル		
走 行 部	主	ク ラ ッ チ 形 式	ブレーキ連動ベルトテンション	
	操	行 ク ラ ッ チ 方 式	車軸ロック式サイドクラッチ	
	ク	ローラ(幅×ピッチ×リンク) (mm)	150 × 60 × 25 L	
部	接	地 圧 (kg/cm ²)	0.20	
	変	速 段 数	前進3速, 後進1速	
	走	行 速 度	前 進 (km/h)	1.07, 2.08, 4.32
			後 進 (km/h)	1.07
刈 刃 部	刈	刃 ク ラ ッ チ 形 式	ブレーキ連動ベルトテンション	
	刈	幅 (mm)	800	
	刈	高 (mm)	0 ~ 100	
	刈	刃 回 転 径 (mm)	300	
	ハ	ン マ ナ イ フ	刃数46枚	
ベ ル ト	走	行	SB42 W600 または LB42AG4A 1本	
	中	間	SB54 W1000 または LB54AG10A 1本	
	刈	取	SC42 W800 または LB42AG8A 1本	
能 率 (刈幅×速度×0.7)	1	速 (a/h)	6.0	
	2	速 (a/h)	11.6	
	3	速 (a/h)	(移動用)	
使	用 最 大 傾 斜 角		25度	

3. 用語について

- ① この取扱説明書に使用している「前後・左右・右回り・左回り」などの用語は図示のように決めています。
 (運転する状態で作業者中心より考えて前後と決めています。)



② マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

- ・ **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** ……安全上重要な事項を 3 段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
- ・ **取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

各部のはたらき

1. 各部の名称



運転のしかた

1. 運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「運転まえの点検表」を参考に点検してください。

警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。

危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。

◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。

◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料タンクや燃料ホースの老化や、傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷やもれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

点 検 個 所		処 置
運 転 ま え	エンジンクランクケースの油量	・ 検油棒の間に油面があるか。 ・ 口元一ぱいまで補給する。(16, 17 ページ参照)
	燃料コック	・ 水やゴミがたまってないか。 ・ フィルタの目詰まりはないか。 ・ 掃除する。(19 ページ参照)
	燃料タンク	・ 作業に必要な燃料があるか。 ・ 無鉛ガソリンを補給する。(16, 17 ページ参照)
	エアクリーナ	・ エレメントは汚れてないか。 ・ オイルは汚れてないか。 ・ オイルはレベルラインまであるか。 ・ 掃除する。 ・ オイルをレベルラインまで交換又は補給する。(17 ~ 19 ページ参照)
	リコイルスタータの吸気口	・ 吸気口の目詰まりはないか。 ・ 掃除する。(20 ページ参照)
	燃料ホース	・ 燃料もれはないか。 ・ 老化してないか、又傷はないか。 ・ 継手部のクランプはゆるんでないか。 ・ ホースを交換する。(20 ページ参照) ・ クランプを交換して、しっかりと固定する。
	エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンク周囲	・ 草のクズやゴミがたまってないか。 ・ 掃除する。
	刈 刃	・ 刈刃が確実に固定されているか。 ・ 刈刃が摩耗していないか。 ・ 取付部を締付ける。 ・ 刈刃を交換する。(12, 22 ページ参照)
	各部の注油	・ 油切れはないか。 ・ 適量の注油をする。(16 ページ参照)
	刈 刃 カ バ ー	・ 泥・草等が溜まっていないか。 ・ 溜まっていれば泥・草等を取除く。(23 ページ参照)
エ ン ジ ン を 始 動 し て	防 護 カ バ ー	・ 欠けていたり、変形していないか。 ・ カバーを交換する。(23 ページ参照)
	各操作レバー及びワイヤ	・ スムーズに動きますか。 ・ 油ギレしていませんか。 ・ 適量を注油をする。(16 ページ参照)
	走行クラッチレバー	・ 走行クラッチが切れますか。 ・ 駐車ブレーキがききますか。 ・ 異常個所を調べ処置する。(9, 10 ページ参照)
	エンジンコントロールレバー	・ ゆっくりとレバー操作をした時正常に作動するか。 ・ 異常個所を調べ処置する。(7, 8 ページ参照)
	エンジンスイッチ	・ エンジンスイッチを操作した時エンジンが停止するか。 ・ 異常個所を調べ処置する。(7, 8 ページ参照)
刈刃クラッチレバー	・ 刈刃クラッチが切れますか。 ・ 異常個所を調べ処置する。(13, 14 ページ参照)	
サイドクラッチレバー	・ 左右のサイドクラッチが切れますか。 ・ 異常個所を調べ処置する。(9 ページ参照)	

2. エンジンの始動と停止

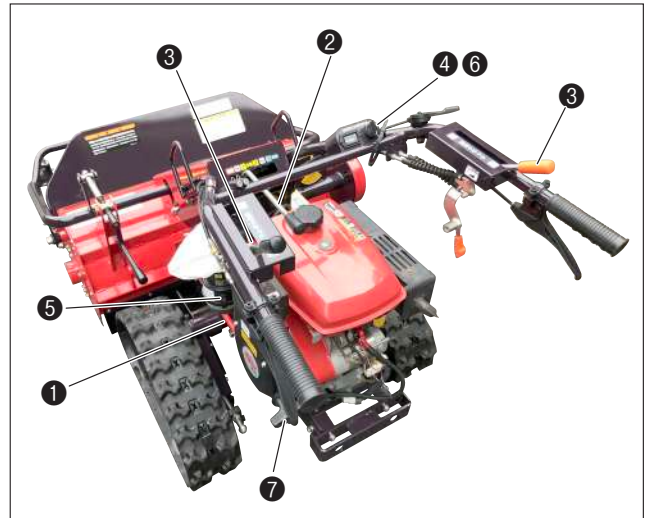
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆機械を平坦な広い場所に置き、マフラ付近の燃えやすいものは取除いてください。
- ◆ハンドルを離しても機械が動かないように駐車ブレーキをかけます。
- ◆点検等で取外したカバー類はすべて取付けてください。
- ◆エンジンを始動するときは、変速レバーを《N》中立にし走行クラッチレバー及び刈刃クラッチレバーを《切》にしてください。
- ◆マフラ排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
- ◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
- ◆マフラやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」をすることがあります。
- ◆リコイルスタータを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

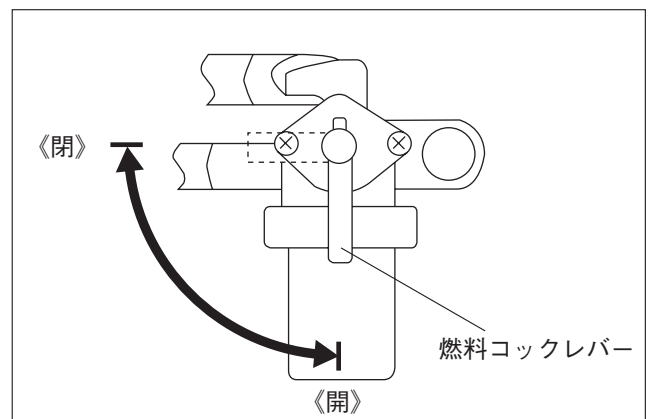
取扱いのポイント

- 走行クラッチレバーが《入》では始動制御装置が作動してエンジンは始動しません。

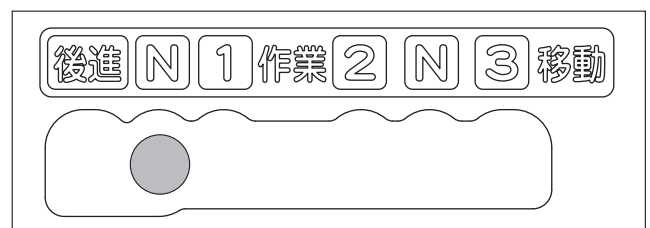
1. エンジン始動のしかた



- ① 燃料コックレバーを《開》位置にします。



- ② 変速レバーを《N》(中立) にします。

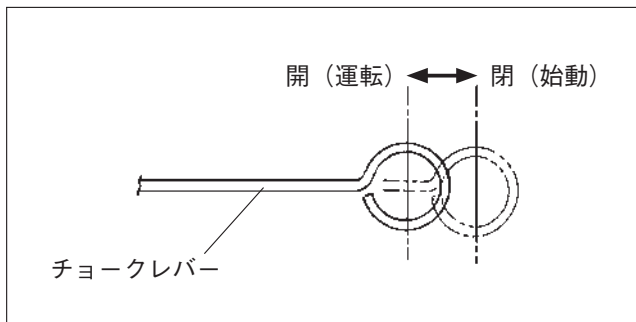


③ 走行クラッチレバー及び刈刃クラッチレバーを《切》にします。

④ エンジンスイッチを《運転》位置にし、エンジンコントロールレバーを《低》(低速)と《高》(高速)の中間にします。

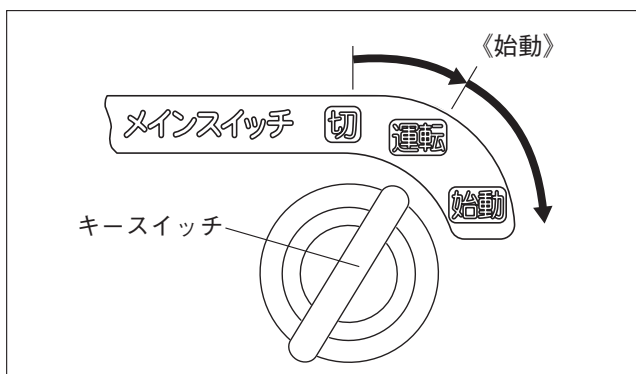


⑤ チョークレバーを《閉》にします。
エンジンがよく暖まっているときは、チョークレバー操作は不要です。



⑥ セルスタータの場合
キースイッチを《切》→《運転》→《始動》に回します。

キースイッチは、手を離すと《運転》の位置に戻ります。



⑦ リコイルスタータの場合

⚠️注意 傷害事故防止のために

- ◆引張る方向に障害物がないことを確認してください。
- ◆引張るときに、マフラに手を触れないでください。

リコイルスタータハンドルを握って勢いよく引張ります。



取扱いのポイント

- エンジン始動後は、エンジンコントロールレバーを《低》(低速)と《高》(高速)の中間にし、約5分間暖機運転をしてから作業をしてください。
- エンジンが回転しているときには、キースイッチを回してはいけません。
- キースイッチを《運転》に回して10秒たっても始動しないときには、30秒ほど休止してから、同じ操作をくり返してください。30秒以上の連続使用は故障の原因になります。

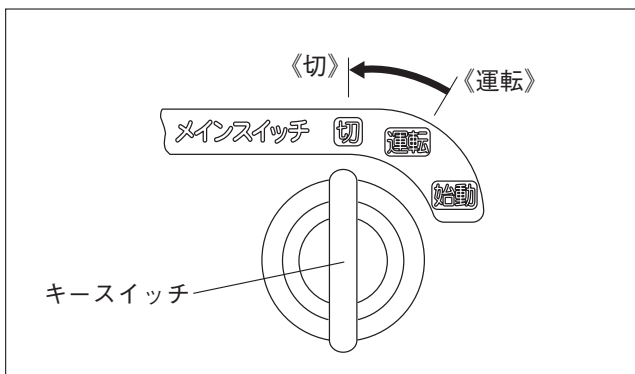
運転のしかた

2. エンジン停止のしかた

- ① エンジンコントロールレバーを《低》(低速)の位置にします。



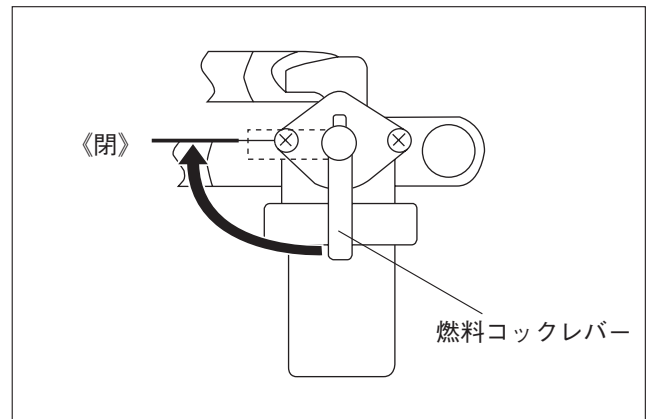
- ② キースイッチを《切》まで回すと、エンジンは止まります。



取扱いのポイント

- 使用しないときやその場を離れるときは、キーを外して保管してください。

- ③ 燃料コックレバーを《閉》位置にします。



3. 発進・旋回・停車のしかた

1. 発進のしかた

警告 傷害事故防止のために

- ◆後進する時は後方および周囲に障害物がないことを確認して行なってください。
- ◆エンジンを始動する時、または変速レバーを操作する時は走行クラッチレバー、刈刃クラッチレバーを《切》にしてください。
- ◆傾斜地または地形の悪い所では「移動3」は使用しないでください。
- ◆刈刃を回転させたままでの移動作業は、しないでください。
- ◆傾斜面を降ろす時は、「後進」で降ろしてください。
- ◆緊急時には、走行クラッチレバーを《切》にして機械の進行を止めてください。
- ◆草刈りしない場合には、刈刃クラッチレバーを《切》にしてください。
- ◆発進するときは周囲を確認してからゆっくり行なってください。
- ◆旋回する時はエンジン回転を低速にして、周囲を確認して行なってください。
- ◆高速で走行している時は、サイドクラッチレバーを操作しないでください。

- ① エンジンコントロールレバーを《低》(低速)にします。
- ② 走行クラッチレバーを《切》にします。
- ③ 変速レバーを作業に応じた変速位置に入れます。
- ④ 走行クラッチレバーを《入》にすると発進します。



- ⑤ エンジンコントロールレバーを操作し、エンジン回転を上げます。

取扱いのポイント

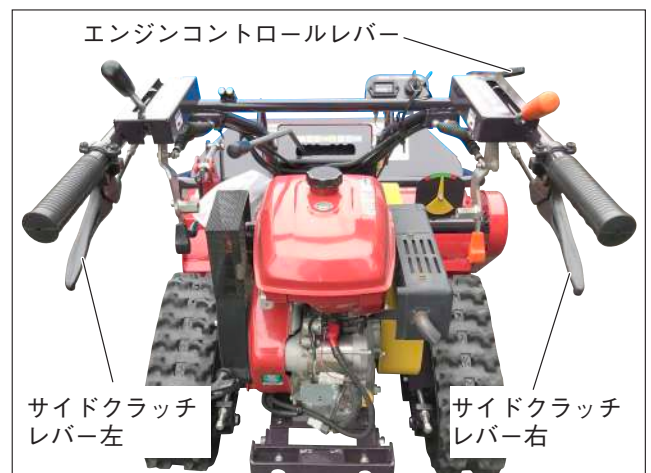
- 変速レバーは走行クラッチレバーを《切》にして操作してください。
- 変速レバーが入り難い場合は無理な操作をせず、走行クラッチレバーを入れもう一度切ってから変速してください。
- 《N》(中立) → 《後進》, 《後進》 → 《N》(中立) への操作時は、変速レバーを下方向へ押さえながら変速してください。

※安全のため、変速ガイドの突起を大きくしており、後進へ入りにくい構造になっております。

2. 旋回のしかた

機械の方向を変える時は、エンジンコントロールレバーを《低》(低速)にし旋回する側のサイドクラッチレバーを握ります。

さらに強く握るとサイドブレーキが作動し、機械が「旋回」します。

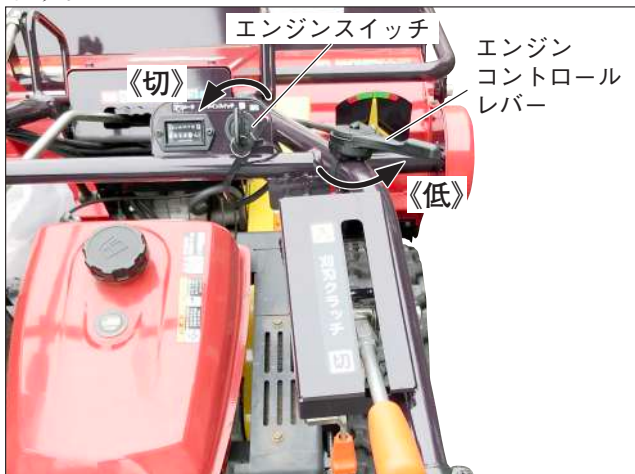


3. 停車のしかた

⚠警告 火災・傷害事故防止のために

- ◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
- ◆機械は平坦な場所を選んで止めてください。
- ◆坂道では駐車しないでください。
- ◆機械から離れる時は、平坦な場所に置き走行クラッチレバーを《切》(駐車ブレーキ)の位置にしてエンジンを停止してください。

- 1 走行クラッチレバー、刈刃クラッチレバーを《切》にします。
- 2 エンジンコントロールレバーを《低》(低速)にします。
- 3 変速レバーを《N》(中立)にします。
- 4 エンジンスイッチを回してエンジンを停止します。



- 5 自動車へ積込んだ時や傾斜地では、走行クラッチレバーを《切》(駐車ブレーキ)にします。



- 6 燃料コックレバーを閉にします。
- 7 長時間使用しない時(1ヶ月以上)はプルドレンを引き気化器内の燃料を抜きます。



取扱いのポイント

- エンジンを停止する時は2～3分間低回転で冷却運転を行いエンジン温度を下げた後から停止してください。
- 燃料コックレバーを閉の位置にしてください。燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。
- エンジンを停止したあと長期間使用しない時は、リコイルスタータで圧縮位置にしてください。

4. 自動車への積込み・積降ろし

- ・自動車への積込み・積降ろしは、まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び、自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「作業1」又は後進に入れ、タイヤに歯止めをしてください。
- ◆アユミは強度、幅（クローラが外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のある、すべり止め、フック付きのものを使用してください。
- ◆アユミのフックは段差のないように平行にかけ、はずれないことを確認して行ってください。
- ◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないでください。
- ◆積込み・積降ろし時は刈刃部を上げアユミに刈刃部が引っ掛からないようにしてください。
- ◆積込みは「作業1」、積降ろしは「後進」で低速で足元を確認しながら行ってください。
- ◆自動車への積込み・積降ろし中はアユミの上で、サイドクラッチ、走行クラッチ、変速の各レバーは操作しないでください。急に方向転換したりして転落する恐れがあります。
- ◆刈刃を回転させたままで積込み、積降ろし作業はしないでください。
- ◆補助者は機械の直前には立たないようにして誘導してください。
- ◆トラックは荷台に天井が無い車を使用してください。

1. 自動車・アユミについて

- ① 積載重量を超えない自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。
- ② 自動車は駐車ブレーキをかけ、変速を1速又は後進に入れ、タイヤに歯止めをします。
- ③ アユミは自動車の荷台高さの4倍以上の長さ、機械の重量に耐えられる強度と幅があり、すべり止め・フック付きのものを使用します。
- ④ アユミは左右のクローラ位置に合わせ自動車の荷台と平行に段差のないようにつけ、横ずれしたり、はずれたりしないようにセットします。

2. 機械の扱いかた

- ① エンジンコントロールレバーを《低》位置にします。
- ② 変速レバーをガイドの溝に沿って操作し作業《1》又は《後進》の位置にします。
- ③ 積込みは「作業1」で行います。刈刃部先端を上げアユミに引っ掛けないようにして行います。
- ④ 降ろすときは「後進」で行います。刈刃部を上げアユミに引っ掛けないようにして行います。
- ⑤ 自動車に積込みが終わったら、エンジンを停止して、走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）にします。

作業のしかた

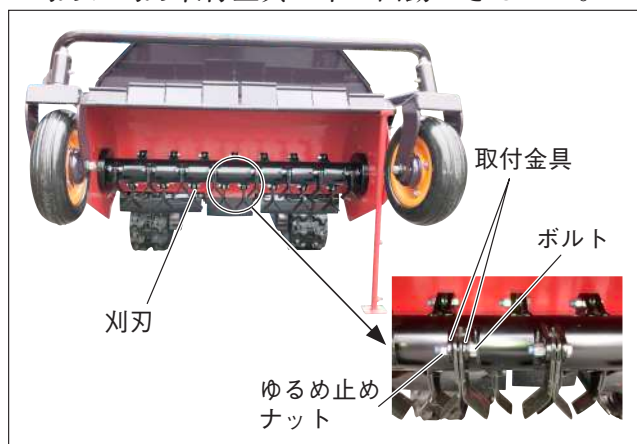
1. 作業まえの準備

1. 刈刃の取付け

警告 傷害事故防止のために

◆刈刃の取付けが、不十分だったり破損した部品や、極端に摩耗した刈刃を使用しつづけると、振動による機械の破損原因となり危険ですので作業前に点検してください。

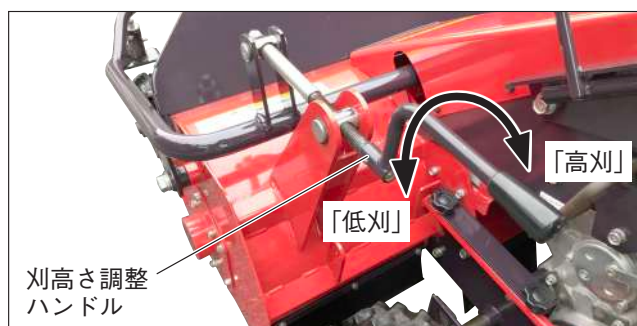
- 1 刈刃は取付金具に2枚ずつ背合わせでボルトとゆるみ止めナットで取付けてあります。
- 2 ボルトのゆるみ止めナットは次のことを確認してください。
 - ・ゆるみ止めナットの端面よりネジ山が2山以上突出していること。
 - ・刈刃は刈刃取付金具の中で回転できること。



2. 刈高さの調整

刈高さ調整ハンドルを回し前輪を上下させて行ないます。

ハンドルを左に回すと「低刈」になります。
ハンドルを右に回すと「高刈」になります。



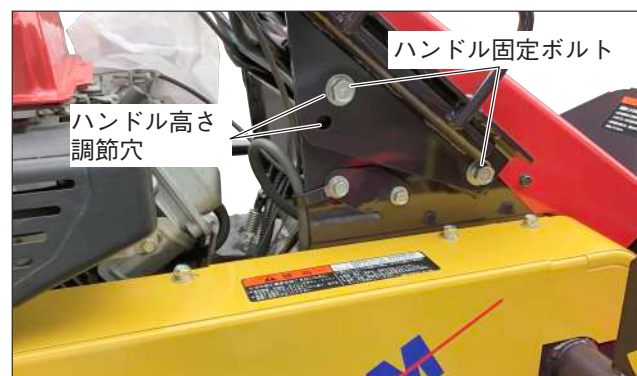
取扱いのポイント

- 刈高さを少し高めにして作業をすると刈刃の破損や摩耗が少なくなり刈刃が長持ちします。
- 次のようなときは「高刈」にしてください。
 1. 小石がある作業場
 2. 刈刃が土削りをするとき
 3. 凹凸のある作業場
 4. ぬれた草、長い草、密集した草など（2回刈りする）

3. ハンドル高さ調節

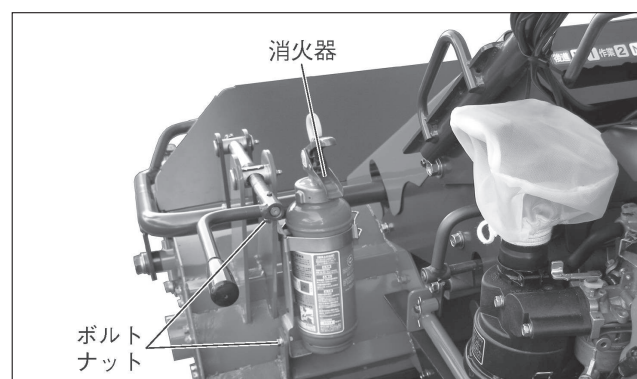
ハンドルは、使用する人の体格に合わせて使いやすい高さに調節します。

- ・調節は、ハンドル高さ調節穴位置を変えることにより2段階に調節できます。



4. 消火器の取付け（オプション）

消火器はボルト、ナットで取付けます。



2. 作業のしかた



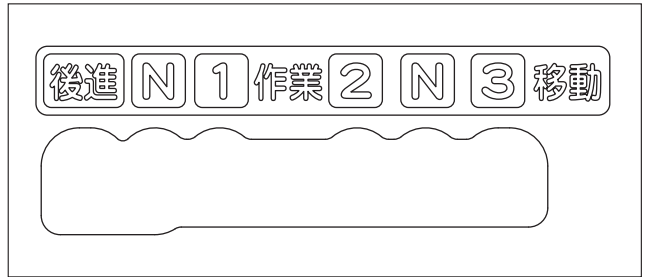
1. 作業場への出入りのしかた

警告 傷害事故防止のために

- ◆作業場への出入りやあぜ越えは刈取部の回転を止めてから行なってください。
- ◆「低速」であぜに「直角」に上りは「前進」、下りは「後進」で行なってください。
- ◆高あぜ・急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
- ◆アユミの上ではサイドクラッチ、走行クラッチ、変速の各レバーは操作しないでください。
- ◆あぜがくずれないことを確認してから、ゆっくりと行ってください。
- ◆後進するときは後方に溝や障害物がないことを確認してから行ってください。

- ① エンジン回転を低速にします。
- ② 変速レバーはガイド溝に沿って作業《1》又は《後進》にします。
- ③ 走行クラッチレバーを《入》に操作しゆっくりと前進、後進します。
- ④ 走行クラッチレバーを《切》に操作すると機械は停止します。

2. 作業に適した速度の選びかた



・走行変速

前 進	《 1 》	移動走行, 作業走行, 自動車への積込み, あぜ越え
	《 2 》	移動走行, 作業走行
	《 3 》	移動走行
後 進	《後進》	移動走行, 自動車からの積降ろし

3. 前輪固定のしかた

傾斜地で安定した作業をするために前輪をピンで固定してください。

- ① ピンとスナップピンを取外します。



- ② 取外したピンを前輪固定用穴に差込み、スナップピンを取付けて前輪を固定します。



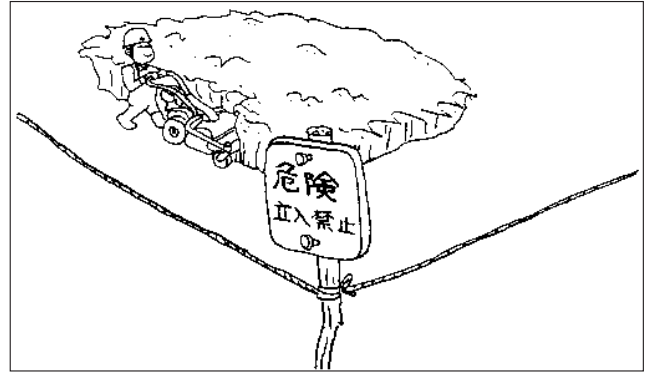
4. 上手な作業のしかた

⚠ 警告 傷害事故防止のために

- ◆石などの異物の飛散により人、家畜、車、家屋などに被害をあたえるおそれがあるので10 m以上離れた所で作業をしてください。
- ◆作業中は危険であることを説明した立札やロープを張るなどして10 m以内に人が近づかない様に注意しながら作業をしてください。
- ◆幼稚園、学校、公園等に隣接している作業場では危険です。人の出入りがないことを確認してから作業を行ってください。
- ◆事前に石などの異物は取除き障害物、側溝、軟弱地、凸凹地や見通しの悪い所には、目印のポールなどを立て近づけないようにして注意しながら作業をしてください。
- ◆機械の直前での確認作業はしないでください。
- ◆25度以上の傾斜地では作業をしないでください。
- ◆旋回や後進をするときは周囲や足元を確認しながら行ない、あぜの上にあがったり土手ぎりぎりでは行わないでください。
- ◆後進するときはエンジン回転を下げて行ってください。
- ◆緊急時には、走行クラッチレバーを《切》にして機械の進行を止めてください。
- ◆作業途中で点検するときは高温部に手を触れないでください。
- ◆刈刃カバー内に溜まった草や泥などを取除くときは、エンジンを停止して行ってください。
- ◆この機械はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業や移動はしないでください。

⚠ 注意

- ◆刈刃に巻き付いたつる草は、速やかにエンジンを停止し、除去してください。つる草を巻き付けたまま作業を続けると、早期故障の原因となります。



- ① エンジンコントロールレバー《高》にします。
- ② 変速レバーは、ガイド溝に沿って作業《1》の位置にします。
- ③ 走行クラッチレバーを《入》に操作すると前進します。
- ④ 走行クラッチレバーを《切》に操作すると機械は停止します。
- ⑤ 刈刃クラッチレバーを《入》に操作すると刈刃が回転します。
- ⑥ 刈刃クラッチレバーを《切》に操作すると刈刃が停止します。

取扱いのポイント

- ぬれた草を刈ると刈刃カバー内に刈った草が溜まりやすくなり機械に無理な負荷がかかりますので草は乾くまで待って作業を開始するか、草のクズをこまめに取除いてください。
- 機械に無理な負荷がかかるときは作業《1》にするか刈高さを高くして2回刈りをする又は刈る幅を少なくするなどして作業をしてください。(ぬれた草、長い草、密集した草など)
- エンジン回転を十分に上げてから刈刃クラッチを入れないとエンストをする場合があります。
- 刈刃の回転が十分上がってから作業してください。回転が低いとエンストしたりきれいに刈ることができない場合があります。
- 長い草やつる状の草は刈刃に巻き付きうまく刈ることが出来ない場合があります。
- 傾斜地で作業するときは、前輪をピンで固定してください。安定した作業ができます。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
- ◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
- ◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1. 定期点検整備

・正常な機能を発揮し、いつでも安全な状態であるように「定期点検整備表」に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」(点検○, 交換●)

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ 備考
			シーズン前	30時間毎	50時間毎	格納時	
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○ (毎日作業前)	● (初回のみ)	●	○	16, 17
	エアクリーナエレメント・オイル	点検・掃除・補給	○ (毎日作業前)			○	16～19
	燃料コック	点検・掃除	○ (毎日作業前)			○	19, 31
	燃料ホースの劣化ともれ	点検・交換	○ (毎日作業前)			○	20
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○ (毎日作業前)			抜取り	17, 31
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	10, 31
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	19
本機関係	リコイルスタータ	点検・掃除	○ (毎日作業前)			○	20
	ミッションケースの油量	点検・補給・交換	○	● (初回のみ)	●	○	16, 18
	各操作レバー軸・テンションプーリー 回動支点・ワイヤの注油	注油	○ (毎日作業前)			注油	16, 18
	各操作レバーの作動	点検	○ (毎日作業前)			○	16, 18
	走行クラッチ	点検・調整	○ (毎日作業前)		○	○	14, 25, 26
	刈刃クラッチ	点検・調整	○ (毎日作業前)		○	○	14, 26, 27
	サイドクラッチ	点検・調整	○ (毎日作業前)		○	○	9, 28
	駐車ブレーキ	点検・調整	○ (毎日作業前)		○	○	10, 28
	Vベルトの伸び	点検・調整	○		○	○	25～29
	ボルト・ナットのゆるみ	点検	○			○	—
	クローラ	点検・調整	○ (毎日作業前)			○	20, 21
	刈刃の取付と刈刃の摩耗, 損傷	点検・交換	○ (毎日作業前)			○	12, 22
	刈刃カバー内側への泥, 草の溜り	点検・掃除	○ (毎日作業前)			○	23

使用済み廃棄物の処分について

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- ◆機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- ◆地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- ◆廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他有害物を廃棄、又は焼却するときは、「お買い上げ先」、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

2. 給油・注油のしかた

- ・工場出荷の時は各給油個所にオイルが入れています。
- ・オイルの点検・交換は、「運転まえの点検表」及び「定期点検整備表」に従って行います。
- ・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- 各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。
- 廃油など汚れたオイルを注油すると、故障の原因となりますので使用しないでください。

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆給油・注油・点検する時は、機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆回転部・摺動部から異音が発生する時はエンジンを停止、各部の動きが止まってから点検および注油してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
- ◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。又オイル交換もしないでください。
- ◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
- ◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆マフラに触れないでください。

「給油・注油表」

No	給油・注油個所	種類	分類		容量 (L)	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	—	—	5.4	・始業時点検 (必要量補給)
②	エンジンクランクケース	エンジンオイル	SE 級以上	10 W - 30	1.0	・初回 30 時間目に交換 ・50 時間毎に交換
③	ミッションケース	ギヤオイル	GL-4 級以上	80 W	2.2	・初回 30 時間目に交換 ・50 時間毎に交換
④	エアクリーナ	エンジンオイル	SD 級以上	10W - 30	オイルレベルまで	・始業時点検
⑤	摺動部 (ワイヤ類)	エンジンオイル	SD 級以上	10 W - 30	適量	・始業時点検
	走行クラッチレバー軸					
	変速レバー軸					
	テンションプーリ支点軸					
	刈高さ調整部					
	刈刃クラッチレバー軸					
	フロントカバー支点軸					
	前輪軸					
前輪フレーム支点軸						
⑥	クローラフレーム支点軸	グリス	—	—	適量	・グリスニップルあり
	前輪フォーク軸					

1. 燃料の補給



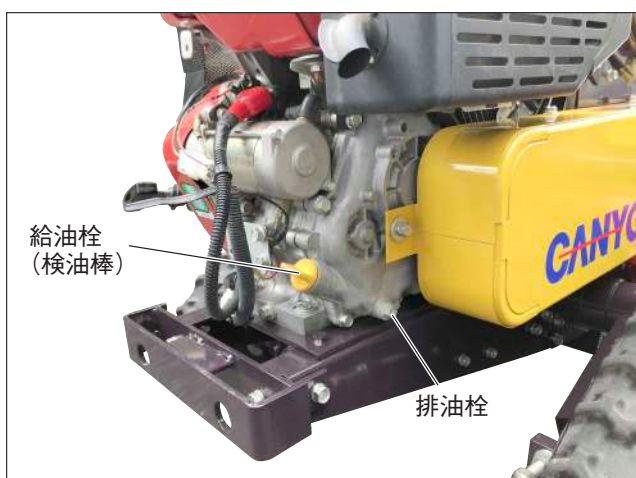
燃料キャップを外して給油口より補給します。

- ・燃料……………無鉛ガソリン
- ・タンク容量……5.4 L

取扱いのポイント

- 燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。
- 燃料は入れすぎるとキャップ部ににじみ出ますので燃料タンクの油面上限赤棒マーク以下にしてください。

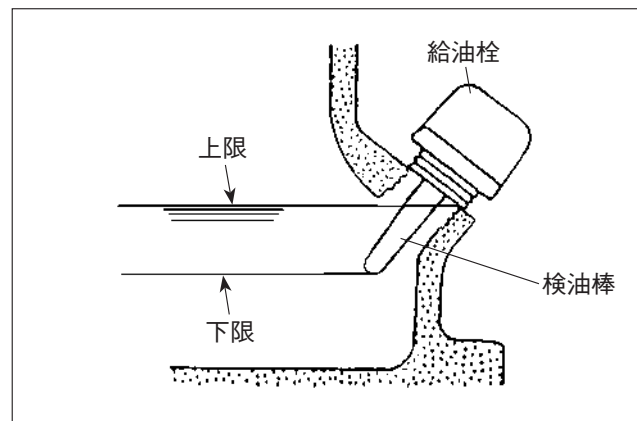
2. エンジンオイルの点検・交換



- ① 点検……エンジンが水平になる場所に停車し、給油栓を外し検油棒の面をきれいにふき取ってから差込みます。(ねじ込まない)

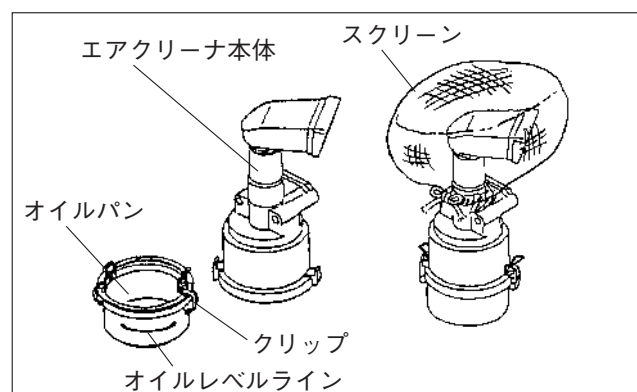
取扱いのポイント

- エンジンが水平になるように刈高さを調整して前輪を接地させます。
- ・ 検油棒の間に油面があるか確認し、不足している場合は、上限まで補給します。



- ② 交換……排油栓を外し、オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら、排油栓を確実に締め、新しいオイルを、規定量（上限）給油します。
 - ・ オイル……ガソリンエンジン用オイル
API・SE 級以上, SAE・10W-30
 - ・ オイル量…1.0 L

3. エアクリーナのオイル補給



手入れのしかた

- ① 補給……オイルパンのオイルレベルライン（規定量位置）までオイルがあるか確認します。

- ・不足している場合はクリップを倒してオイルパンを外し、オイルレベルライン（規定量位置）までオイルを補給します。

- ・オイル……ガソリンエンジン用オイル

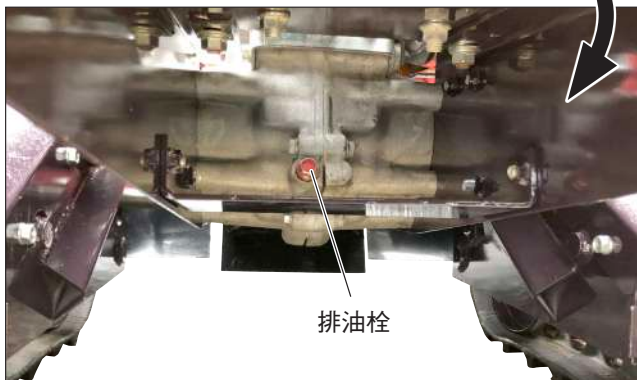
API・SD 級以上、

SAE・10W-30

- ・オイル量…オイルレベルライン位置

- ② スクリーン…エアクリーナに同梱のスクリン（布袋）を必ずかぶせてください。

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換



- ① 点検……給油栓を外し、油量が口元まであるか調べます。

- ・不足している場合は、給油栓の口元まで補給します。

- ② 交換……(1) ケース下部の排油栓を外しオイルを抜きます。

(2) 排油栓を取付けた後、給油栓より、給油栓の口元まで給油します。

- ・オイル……ギヤオイル

API・GL-4 級以上、SAE・80W

- ・オイル量…2.2 L

取扱いのポイント

- 機体姿勢は、エンジンオイル点検姿勢又は、刈高さを一杯低刈に調整して前輪を接地させた姿勢で行います。

5. 注油箇所

- ① 注油……油差しで注油します。

- ・オイル……ガソリンエンジン用オイル

API・SD 級以上、

SAE・10W-30

- ・グリス

- ・オイル、グリス量…適量注油

- ・注油箇所…ワイヤ類・走行クラッチレバー軸・変速レバー軸・テンションプーリ支点軸・刈高さ調整部・刈刃クラッチレバー軸・フロントカバー支点軸・前輪軸・前輪フレーム支点軸・前輪フォーク軸・クローラフレーム支点軸（グリス）



3. 各部の点検と掃除のしかた

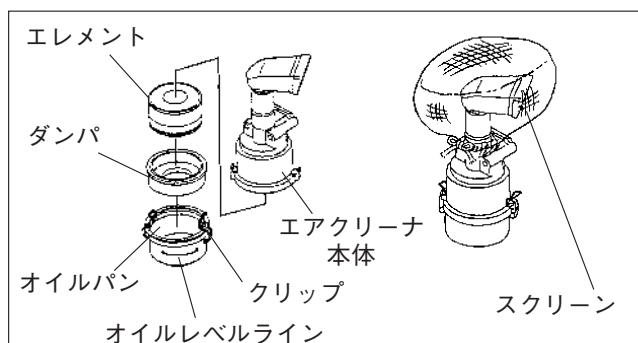
⚠危険 火災防止のために

◆エレメント、フィルタの洗浄にガソリンは使用しないでください。

1. エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

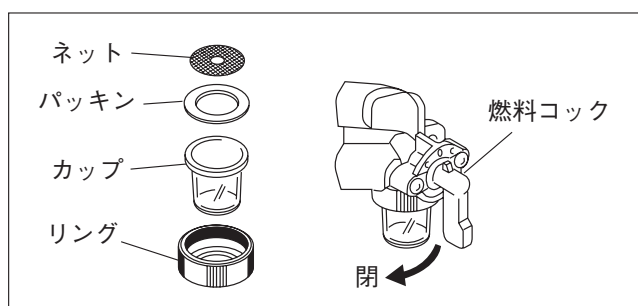
- ① オイルが不足している時は、オイルパンのオイルレベルラインまで補給します。
- ② オイルが汚れている時はオイルパンとエレメントを外して白灯油で洗浄し、エレメントは白灯油を振切って取付けます。オイルパンにエンジンオイルをオイルレベルラインまで入れます。
- ③ スクリーンにゴミが付いている場合は落としてください。又スクリーンの汚れがひどい場合は、新品に交換してください。



2. 燃料コックの掃除

カップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックレバーを《閉》にし、カップとネットを外して、灯油できれいに洗浄し取付けます。

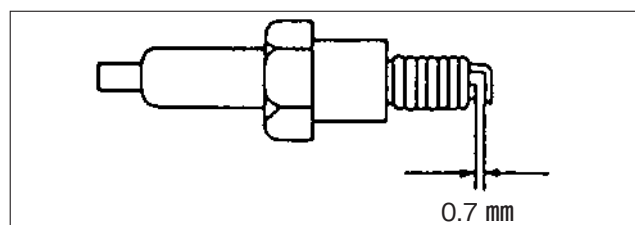


3. 点火プラグの点検と掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リコイルスタータを引く時にプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

- ① プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。
- ② 点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが「0.7 mm」になるように点検調整します。



- ③ 電極部が損耗または破損しているときは、新しい点火プラグと交換します。
- ④ 点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。

・使用点火プラグ……NGK - BPR5ES

取扱いのポイント

- プラグキャップを外したままでリコイルスタータを引かないでください。
- 点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスタータを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。
- 点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しない時は新しい点火プラグと交換してください。

4. リコイルスタータの掃除

リコイルスタータ部の吸気口は、きれいに掃除します。草のクズ、ゴミ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。)



5. 燃料ホースの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの老化や傷による燃料もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。傷んでいなくても2年ごとに交換します。

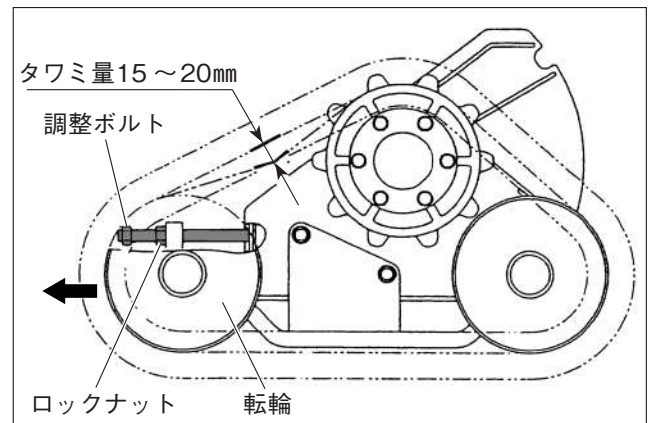
6. 前輪タイヤの点検

・タイヤに亀裂等損傷がないか点検します。
損傷のひどい場合は、タイヤを交換します。

7. クローラの点検・調整

① 点検……クローラ上部の中央部を196N (20kgf)程度で押して、タワミ量が15～20mmになっているか確認します。
又、左右のクローラの張りが同じになっているか確認します。

② 調整……調整ボルトのロックナットを緩めて、調整ボルトを締込んで転輪を矢印の方向に張ります。
・左右のクローラの張りが同じになるよう調整し、ロックナットで固定します。

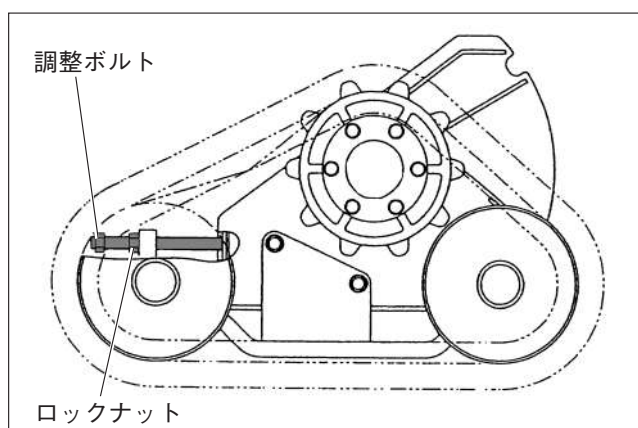


取扱いのポイント

●クローラの張りすぎると転輪にアソビがなくなり機械が壊れる恐れがあります。

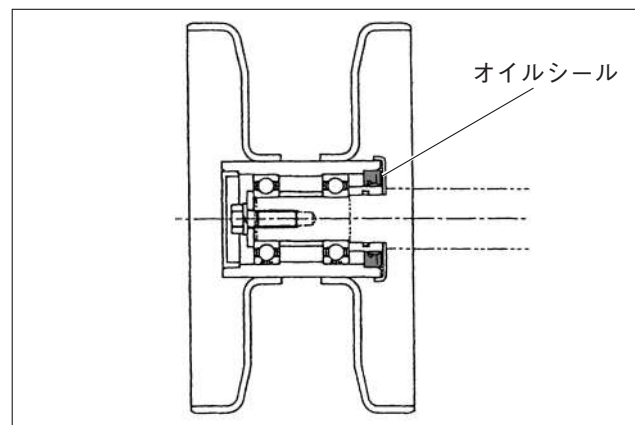
8. クローラの交換

- ❶ ロックナットを緩め、次に調整ボルトを左に回転させ、クローラの張りを緩めます。このとき駆動スプロケットとクローラが外れる位置まで緩めます。
- ❷ 古いゴムクローラを抜き取り、新しいクローラと交換します。
- ❸ 調整ボルトでゴムクローラの張り調整を行なってください。



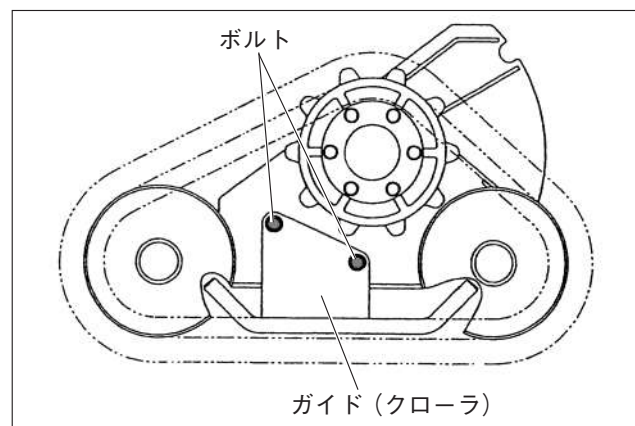
9. 転輪のオイルシールの点検

クローラの転輪のオイルシールは100時間毎に点検チェックの上、異常があれば交換してください。



10. ガイド（クローラ）の交換

ガイド（クローラ）は消耗品ですので、点検・チェックし異常摩耗があれば交換してください。

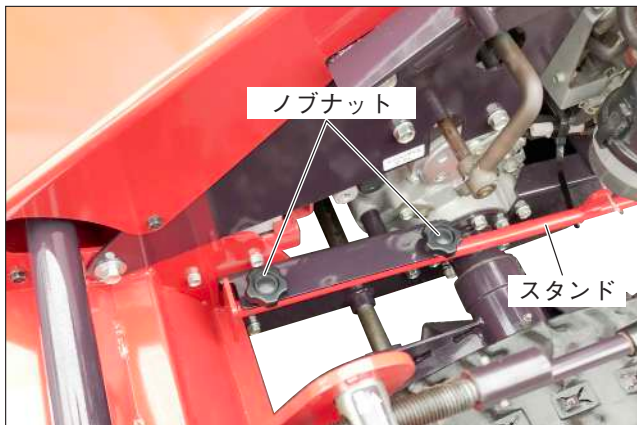


- ❶ ガイド（クローラ）を締付けているボルト2本を外し、新しいガイド（クローラ）に交換します。

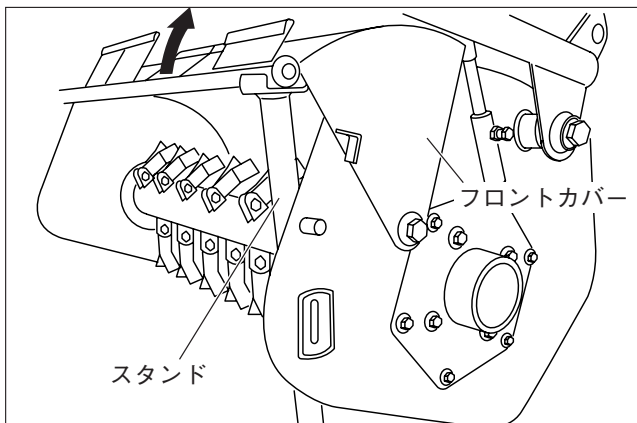
11. スタンドの取付けかた

スタンドは刈刃の点検、交換をする場合に機械を平坦な場所に置き、使用してください。

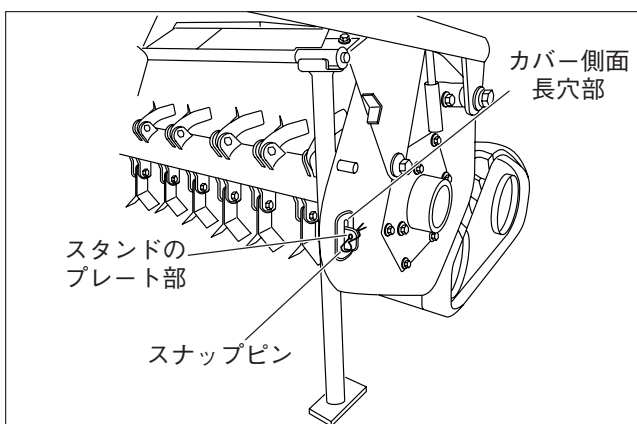
- ① ノブナット2本をゆるめてスタンドを取外します。



- ② 刈刃部を持上げてフロントカバー左端部をスタンドで押し上げます。



- ③ スタンドのプレート部をカバー側面長穴部に差込みスナップピンで固定します。
(スタンドのプレート抜け)

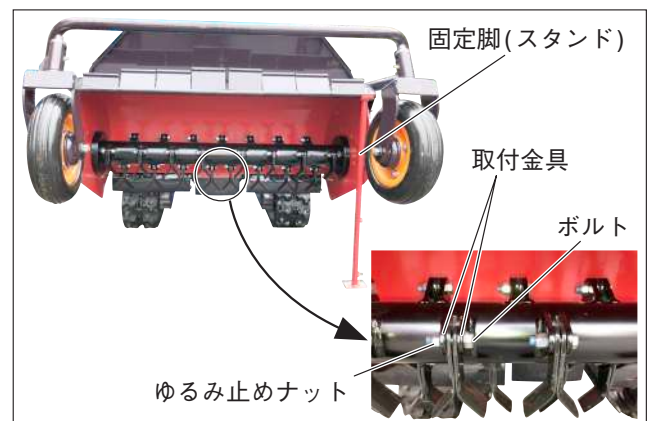


12. 刈刃の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆刈刃の取付けが不十分だったり破損した部品や、極端に摩耗した刈刃を使用しつづけると振動による機械の破損原因となり危険ですので作業前に点検してください。
- ◆摩耗した刈刃を交換する時は全数（46枚）同時に交換してください。（回転バランスがくずれると振動が大きくなり危険です）
- ◆刈刃を取外す時は走行クラッチレバーを《切》（駐車ブレーキ）にして刈刃部を持上げフロントカバーの左端部に固定脚（スタンド）を設置して作業してください。

- ① 刃の角が摩耗して切味が悪くなった時は刈刃をうら返しにして取付けると新しい刃の角が使えます。
- ② 刈刃（全46枚）は刈刃取付金具（全23ヶ）に2枚ずつ背合せでボルトとゆるみ止めナットで取付けてあります。
- ③ ゆるみ止めナットは平たい方をボルトに向けてネジ込みます。
- ④ ボルトとゆるみ止めナットは工具で締付後にゆるみ止めナット端面よりネジ山が2山以上突出していることと、2枚の刈刃が刈刃取付金具の中で回転できることを確認してください。



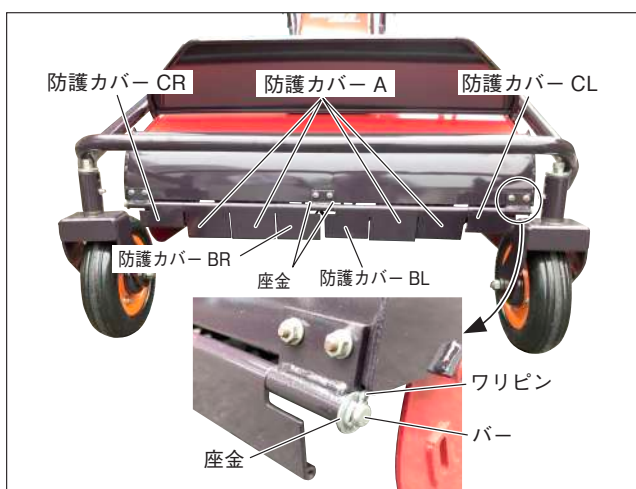
13. 防護カバーの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆防護カバーが欠けていたり変形して短くなっていると石などの異物の飛散が多くなり、危険ですので交換してください。

バー端部のワリピン、座金を外して、バーを抜き取り、防護カバーを交換します。

交換後、防護カバーがスムーズに前後動くことを確認します。

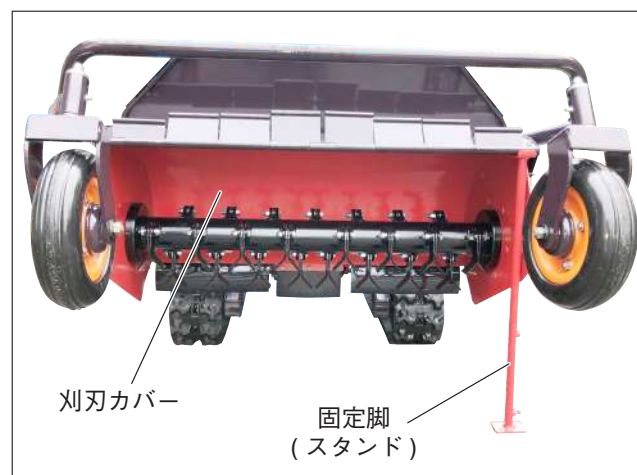


14. 刈刃カバーの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈刃カバーの内側を掃除する時は、走行クラッチレバーを《切》(駐車ブレーキ)にして刈刃カバー部を持ち上げフロントカバーの左端部に固定脚(スタンド)などをおいて作業してください。

刈刃カバーの内側に草や泥などが溜まると、うまく刈ることが出来なかったり機械に無理な負担がかかるため、早目に取り除いてください。



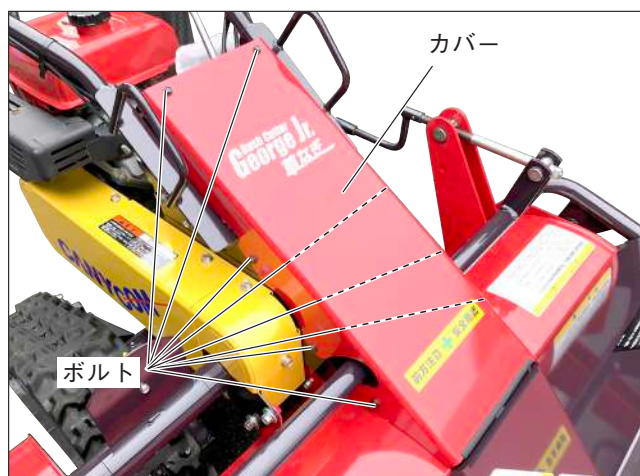
15. バッテリーの点検

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

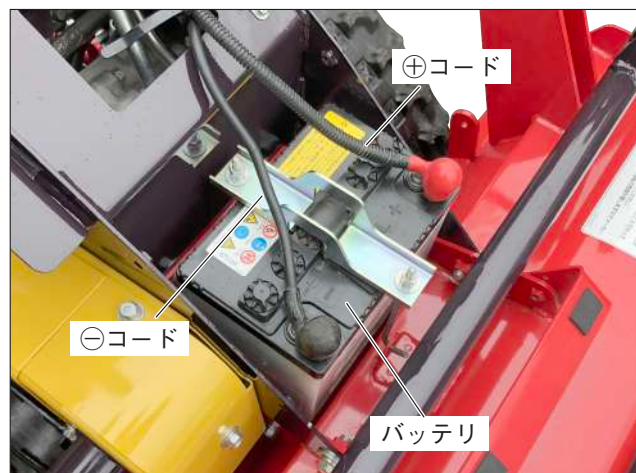
- ◆バッテリーの点検及び取外し時は、エンジンを必ず停止してください。
- ◆バッテリーを取外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリー⊖コードを外し、接続するときは、最後にバッテリー⊖コードを接続してください。
- ◆バッテリーを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。
- ◆バッテリーは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。

① 補充電のしかた

- (1) カバーを取付けているボルト 8 本を外し、カバーを取外します。



- (2) バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外してください。（⊕側から外すと、工具などが接触したときにショートすることがあります）
取付けるときは、必ず⊕側から取付けてください。



- (3) 充電はバッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続して行います。（充電器の取扱説明書を十分お読みになって行ってください。）
(4) バッテリーの端子電圧を測定し、充電状態を確認して下表の要領で補充電してください。
(30A19L/PV)

端子電圧 (V)	13.0～12.5	12.5～12.0	12.0～11.5	11.5～11.0
充電状態 (%)	100～70	70～40	40～20	20以下
充電電流 及び 充電時間	2 A 4 時間	2 A 8 時間	2 A 10 時間	2 A 12 時間

- (5) 補充電後、バッテリーの充電状態をチェックするときは、静止状態で 30 分以上経過後、端子電圧を測定してください。

バッテリー型式	30A19L/PV
交換	(5HR) 16Ah

取扱いのポイント

- バッテリーの充電は必ず本体から取外して行ってください。
取付けたままで充電すると、電装品、配線などを傷めることがあります。

- 補充電中、バッテリー温度が 45°C をこえるときは、充電電流を下げるか補充電一時中止をしてください。
- 端子の締付けは確実にしてください。また端子が錆びないように、端子にはグリースを塗布しておいてください。
- バッテリーは再度取付けるときにはバッテリーの ⊕、⊖ コードを元どおりに配線し、まわりに接触しないよう締付けてください。
- バッテリーの ⊕ と ⊖ のターミナルには、ゴムブーツを必ず取付けてください。

② 保守・点検

- (1) バッテリー上面、特に端子接続部の土やゴミは取除き、清潔な乾燥状態にしておきます。
- (2) バッテリーが、がたつかないように確実に固定します。
- (3) バッテリーから液漏れしていないか点検します。

4. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくる場合がありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆調整後は、異常なく作動することを試運転で確認してください。

1. 走行クラッチワイヤの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆走行クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。
- ◆エンジンを始動して、ベルトの作動、停止を確認する時は、変速レバーを《N》中立にし他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリやベルトに手や足を出さないでください。
- ◆調整後はベルトカバーを取付けてください。
- ◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると、走行クラッチレバーが切れず、事故を起こす恐れがあります。

- ① 走行クラッチレバーは、ベルトテンション式です。
- ② 走行クラッチレバーの調整が悪く、ゆるいと Vベルトのスリップにより作業能率及び性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。
- ③ またテンションを張りすぎると、走行クラッチレバーが切れず、機械を停止できなくなることがあります。

手入れのしかた

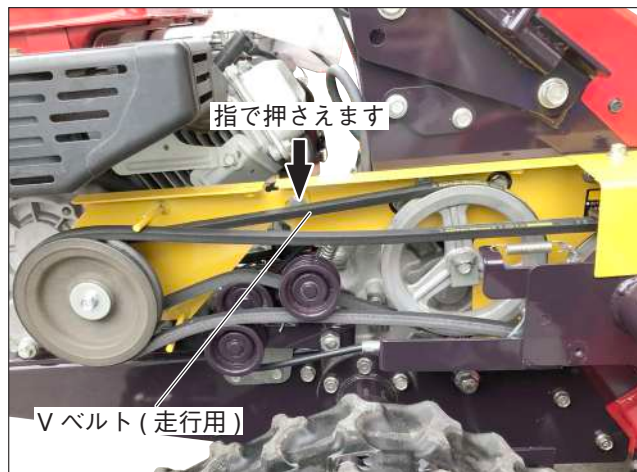
「調整方法」

- (1) エンジンを停止し、ベルトカバーを外します。
- (2) 走行クラッチレバーを《入》にします。



- (3) Vベルトの上側中央部を指で押さえ、「タワミ量」が **10～15 mm** になるよう走行クラッチワイヤ調整ネジで調整します。

走行クラッチレバーの荷重で調整するときは、レバー握り中央部での「操作荷重」が **50～70 N** [**5.0～7.0kgf**] になるように、ワイヤ調整ネジで調整します。



- (4) 変速レバーを《N》(中立)にしエンジンを始動します。
走行クラッチレバーを操作し《切》の位置でVベルトが完全に静止すれば調整は完了です。
Vベルトが完全に静止しない場合は調整ネジを再調整します。

2. 刈刃クラッチワイヤの調整

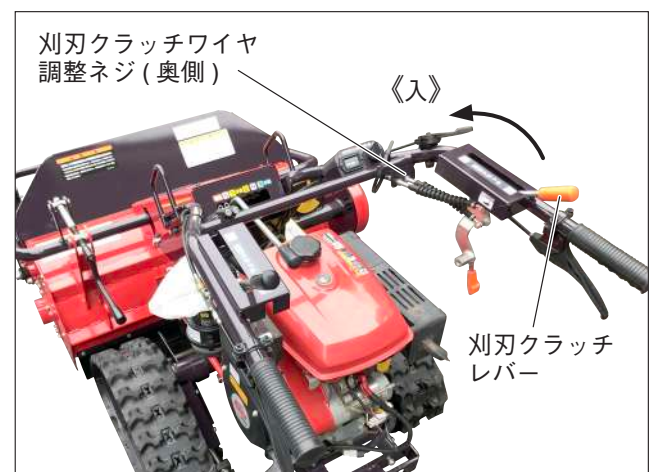
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆刈刃クラッチの調整はエンジンを停止して行なってください。
- ◆エンジンを始動して、ベルトの作動、停止を確認する時は、変速レバーを《N》中立にし他の人や物を遠ざけ、エンジンプーリやベルトに手や足を出さないでください。
- ◆調整後はベルトカバーを取付けてください。
- ◆ベルトを張りすぎないでください。ベルトを張りすぎると、刈刃クラッチレバーが切れず、事故を起こす恐れがあります。

- ① 刈刃クラッチレバーは、ベルトテンション式です。
- ② 刈刃クラッチレバーの調整が悪く、ゆるいとVベルトのスリップにより作業能率及び性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。
- ③ またテンションを張りすぎると、刈刃クラッチレバーが切れず、刈刃の回転を停止できなくなることがあります。

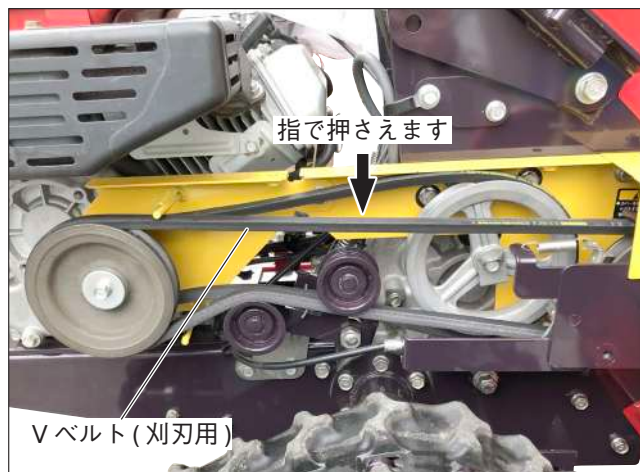
「調整方法」

- (1) エンジンを停止し、ベルトカバーを外します。
- (2) 刈刃クラッチレバーを《入》にします。



(3) Vベルトの上側中央部を指で押さえ、「タワミ量」が **10～20mm** になるよう刈刃クラッチワイヤ調整ネジで調整します。

刈刃クラッチレバーの荷重で調整するときは、レバー握り中央部での「操作荷重」が **70～90 N** {7.0～9.0kgf} になるように、ワイヤ調整ネジで調整します。

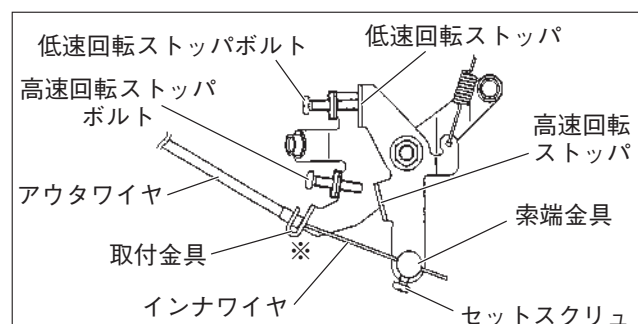


(4) 変速レバーを《N》(中立)にしエンジンを始動します。
刈刃クラッチレバーを操作し《切》の位置でVベルトが完全に静止すれば調整は完了です。
Vベルトが完全に静止しない場合は調整ネジを再調整します。

3. エンジンコントロールワイヤの調整

コントロールワイヤ先端部のセット位置が悪いと、エンジンコントロールレバーを「低速」位置にしても、エンジンのアイドリングが高かったり、「高速」位置にしても、最高回転に達しない場合があります。

① 点検……(1) エンジンコントロールレバーを、いっぱい「低」にした位置で、低速回転ストップが低速回転ストップボルトに当たっていますか。



② 調整……(1) アウタワイヤ先端を取付金具の※印部分に通し、かしめてしっかり固定してください。

(2) 低速回転ストップを低速回転ストップボルトに当てておきインナワイヤを索端金具に差込み、セットスクリュで固定します。

③ エンジンを始動し、エンジンコントロールレバーを操作して「低速」位置にした時、低速回転ストップが低速回転ストップボルトにあたり、「高速」位置にしたとき、高速回転ストップが高速回転ストップボルトにあたることを確認します。

4. サイドクラッチワイヤの調整

サイドクラッチワイヤを張りすぎると、車軸に負荷がかかった時サイドクラッチが外れることがあります。

またサイドクラッチレバーに遊びが多いと、サイドクラッチが切れないことがあり、思わぬ事故の原因になることがあります。

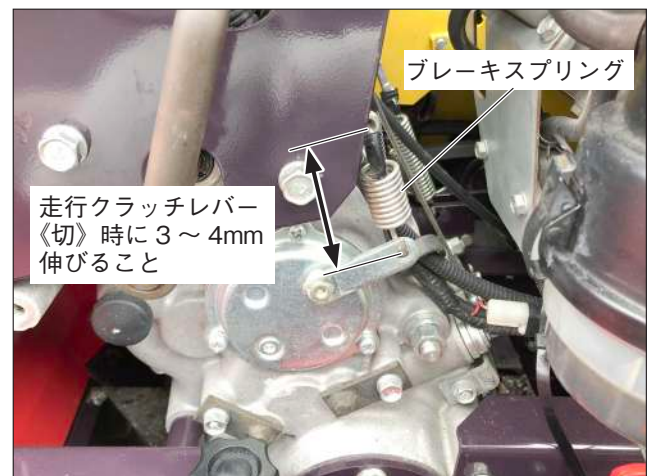
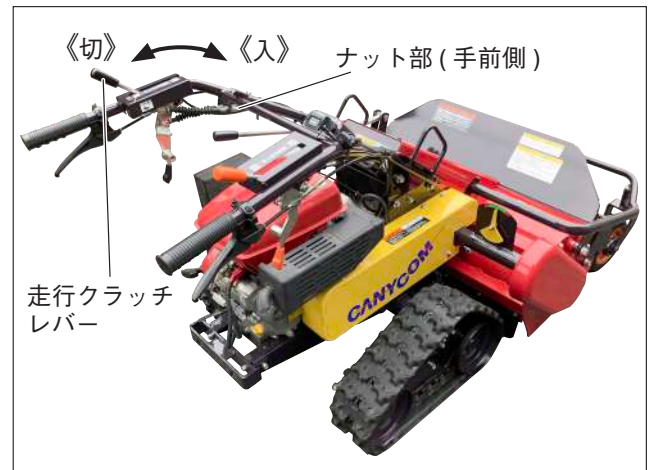
- ① 調整……サイドクラッチワイヤの調整ネジで調整後、ロックナットで固定します。

サイドクラッチ	調整ネジ
切れにくい場合	長くする
戻りにくい場合	短くする



5. 駐車ブレーキワイヤの調整

- ① 走行クラッチレバー《入》の時ブレーキスプリングに遊びがあることを確認します。
- ② 走行クラッチレバー《切》の時ブレーキスプリングが3～4mm伸びるようにブレーキワイヤのナット部で調整します。



取扱いのポイント

- 走行クラッチレバーを《切》にした時、機体を押し引きして機体が動かないことを確認してください。
- 走行クラッチレバーを《入》にした時、機体を押し引きして機体が動くことを確認してください。

6. 刈刃ブレーキワイヤの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ調整を行なってください。
- ◆周囲に障害物がないことを確認して調整を行なってください。

刈刃ブレーキワイヤを張りすぎるとブレーキシューの異常摩耗や破損につながりますので注意してください。

また刈刃ブレーキワイヤの張りがゆるいと刈刃停止時間が長くなり危険です。

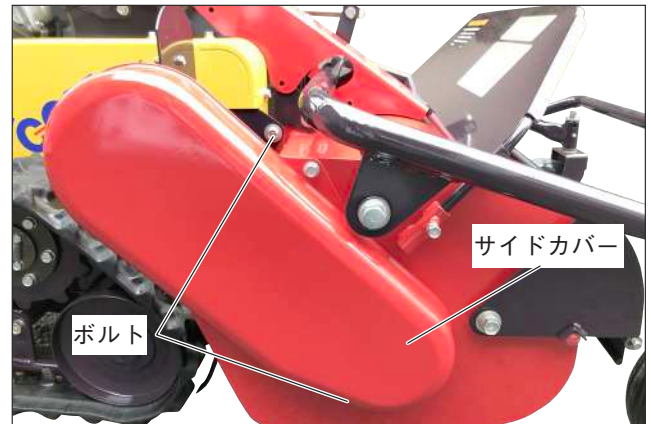
① 調整……

- (1) 変速レバーを《N》(中立)にしエンジンを始動します。
- (2) エンジンコントロールレバーを操作して「高速」位置にし、刈刃クラッチレバーを《入》にします。
- (3) 刈刃の回転が安定するまで待ちます。
- (4) 刈刃クラッチレバーを《切》にしたとき、刈刃停止時間が4～6秒になるように刈刃ブレーキワイヤのナット部で調整します。

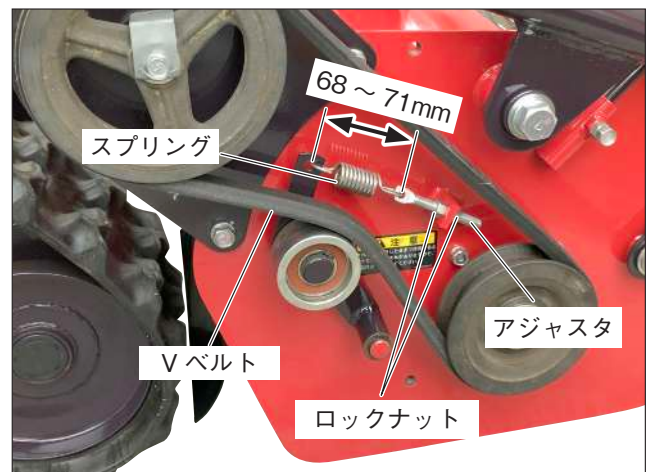


7. 刈刃ベルトの点検・調整

- ① 点検……サイカバーを外し、スプリング長さが68～71mmになっているか確認します。



- ② アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さをアジャスタで調整します。



取扱いのポイント

- ベルトテンションの調整がゆるいとVベルトのスリップにより作業能率及び性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。

長期格納のしかた

警告 火災や傷害事故防止のために

- ◆回転部に付着した泥・ゴミ・草のクズを取除く時は、エンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。
- ◆エンジン・マフラ・燃料タンク周囲の草のクズを取除いてください。火災の原因になることがあります。
- ◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「定期点検整備表」(15ページ参照)の「格納時」の項目について点検・整備及び掃除を行い、更に次の処置をします。

1. 機械の掃除と洗浄

- ① 泥・草のクズ・草などを取除き、汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
- ② 塗装がはげた個所は補修塗料を塗り、機体のサビやすい個所にはグリスかオイルを塗布します。
- ③ 回転部・摺動部・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

取扱いのポイント

- エンジンが熱いときは水をかけないでください。
- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。
- 高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の手取説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

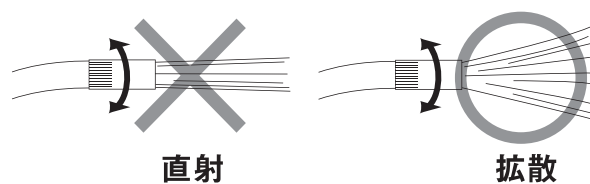
注意 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

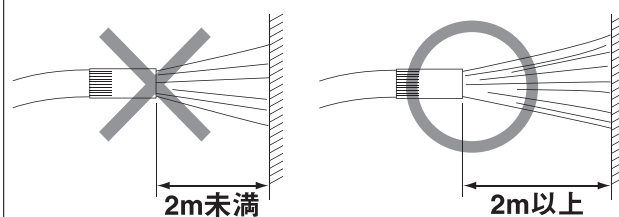
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
2. ホースの破損により、油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 例) (1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品, エンジン, ラジエータ, キャビン内等への侵入による故障
(3) クローラ, オイルシール等のゴム類, 樹脂類, ガラス等の破損
(4) 塗装, メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

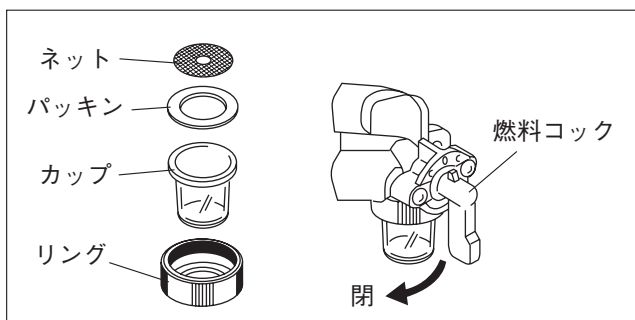


近距離洗車厳禁



2. エンジンの手入れ

- ① エンジンオイルを交換します。
 オイル交換時はアイドリング回転で5分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。
- ② エンジンコントロールレバーはいっぱい「低速」位置にしておきます。
- ③ 機械を1ヶ月以上使用しないときは、燃料変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料タンク・燃料コック・気化器の燃料を抜きます。
 - (1) 燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き、残量はカップを外して抜きます。
 - (2) 気化器下部のプルドレンを緩めて、気化器内の燃料を抜取ります。
 - (3) 燃料を抜終わったら、カップを取付け、燃料コックレバーを《閉》位置にします。
 - (4) 燃料を抜くために、外したり緩めた箇所は元の状態に戻しておきます。



取扱いのポイント

- 気化器は、むやみにいじらないでください。
- 長期間（1ヶ月以上）使用しないときは、燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックを閉じ、気化器下部のドレンを緩めて、燃料を抜取ってください。

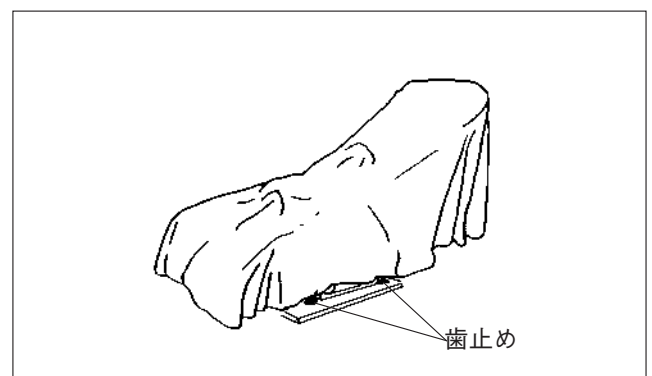
3. 格納

⚠警告 火災防止のために

- ◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
 エンジンが熱い時にシートカバーをかける
 と火災になることがあります。

機械の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、シートをかけて保管します。

- ① 「クローラ」の下には板等を敷き「歯止め」をします。
- ② 各レバーは《切》または《N》(中立)の位置にします。



取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

4. 再使用する時は

格納後、はじめて使用するときは、定期点検整備表のシーズン前点検を行なった後に運転します。(15 ページ参照)

不調時の処置

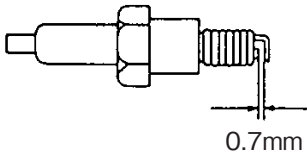
- ・不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは「お買いあげ先」に相談し、点検を受けてください。
- ・その時は不調の状況とあわせて「型式名」・「機械番号」をお知らせください。



警告 ヤケドや傷害事故防止のために

- ◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。
- ◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1. エンジン部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
①エンジンが始動しない。	(1) 始動操作を誤っている。 ・チョークレバーを引いていない	・エンジンスイッチを《入》位置にする。 ① 正しい手順で始動操作をする。 ・エンジンが冷えている時は、チョークレバーを引いて始動する。	6～8
	(2) 燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給し、燃料コックを「開」にする。	6
	(3) エアクリーナにゴミが詰まっている。	・掃除し、オイルを交換する。	17～19
	(4) カップに水・ゴミがたまっている。	・カップを外して掃除する。	19
	(5) 点火プラグが湿っている。 (チョークのしすぎなど)	・点火プラグを外してよく乾燥させる。	19
	(6) 点火プラグの火花が出ない。 または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整する。  0.7mm ・点火プラグのカーボンを掃除する。 ・点火プラグを新品と交換する。	19
	(7) エンジンコントロールレバーの位置はよいか。	・コントロールレバーをやや《高》側に回す。	6～8
	(8) バッテリ充電不足。	・バッテリーを充電する。	24, 25
	(9) 走行クラッチレバーが《入》になっている。	・走行クラッチレバーを《切》にする。	6

不調時の処置

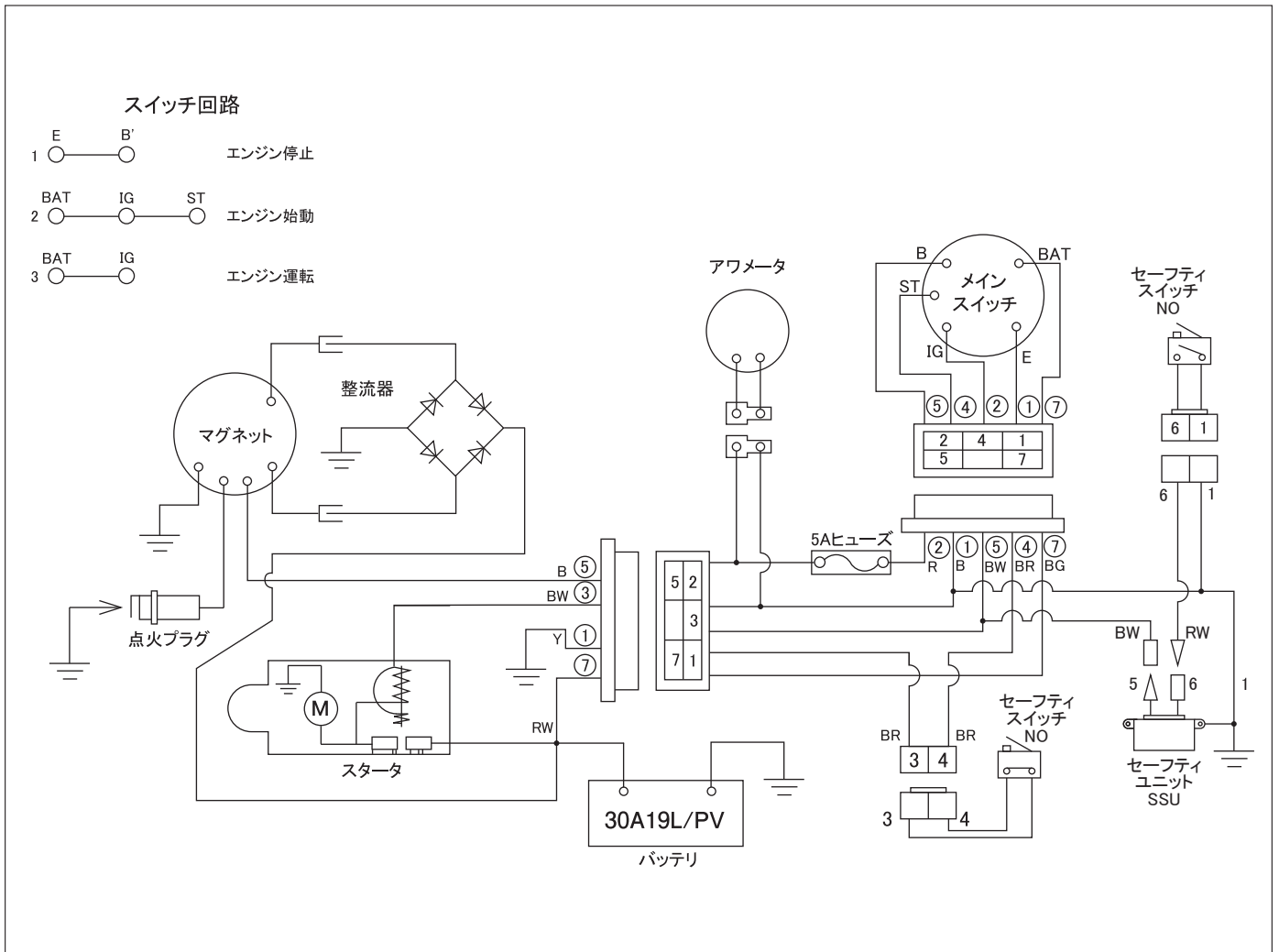
不調の状況	原因 (点検個所)	処置	参照ページ
②エンジンの出力不足。 エンジンが自然に止まる。	(1) カップに水やゴミの混入。	・カップを外して洗浄する。	19
	(2) エアクリーナにゴミが詰まっている。 防じんカバーの目詰まり	・掃除, オイルが汚れていれば交換する。 ・掃除をする。	17 ~ 19
	(3) リコイルスタータ吸気口の目詰まり。	・掃除をする。	20
	(4) エンジンオイルの不足・不良。	・オイルを規定量まで補充する。 ・汚れていれば規格のオイルと交換する。	17
	(5) 過負荷運転をしている。	・各部の調節を適正にし, 過負荷運転をさける。	—
	(6) エンジンの圧縮圧力がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので「お買いあげ先」に相談する。	—
	(7) エンジンの回転が充分あがらない。	・エンジンコントロールレバー・ワイヤのセットおよび取付部のゆるみを点検する。	27
	(8) チョークレバーが《閉》になっている。	・チョークレバーを《開》にする。	6, 7
	(9) 刈刃カバー内に草や泥が詰まっている。	・草や泥を取除く。 ・刈刃に巻き付いている雑物 (針金, ビニール等) を取り除く。	22, 23
③エンジンが止まらない。	(1) エンジンストップスイッチの配線端子が外れている。	・端子を接続する。	36

2. 本機部

不調の状況	原因 (点検箇所)	処置	参照ページ
①直進性が悪い。 クローラが外れる。	(1) クローラの張りが左・右でちがう。 (2) クローラがゆるんでいる。	・左右のクローラともに規定の張りに調整する。	20, 21
②走行クラッチが切れない (停止しない)。	(1) ベルトを張りすぎている。	・走行クラッチワイヤを調整する。	25, 26
③走行クラッチを入れても発進しない。	(1) ベルトがスリップしている。 (2) ベルトの摩耗。	・走行クラッチワイヤを調整する。 ・新品のベルトに交換する。	25, 26
④旋回性能が悪い。 サイドクラッチが切れない。	(1) サイドクラッチレバーの遊びが多い。	・サイドクラッチレバーを調整する。	28
⑤駐車ブレーキがきかない。	(1) 駐車ブレーキスプリングのセット長が不良。	・走行クラッチレバーを《切》にして、ワイヤの調整をする。	28
⑥刈刃クラッチが切れない (停止しない)。	(1) ベルトを張りすぎている。 (2) 刈刃ブレーキスプリングのセット長が不良。	・刈刃クラッチワイヤを調整する。 ・刈刃クラッチワイヤを《切》にして、ワイヤの調整をする。	26,27,29
⑦刈刃クラッチを入れても回転しない。	(1) ベルトがスリップしている。 (2) ベルトの摩耗。	・刈刃クラッチワイヤを調整する。 ・新品のベルトに交換する。	26,27,29
⑧刈り残しが出る。	(1) 刈刃の摩耗。 (2) 刈刃の曲り。 (3) 刈る草が硬い場合。	・刈刃を裏返して取付ける。 ・刈刃を全数同時に新品と交換する。	22, 23
⑨購入時よりも振動が大きくなった。	(1) 刈刃の摩耗が大きい。	・刈刃を全数同時に新品と交換する。	22
	(2) 新品の刈刃と古い刈刃が一緒に取付いている。	・新品の刈刃を取付ける。 ・刈刃の巻き付き物を取除く。	22, 23
	(3) 刈刃の脱落。		
	(4) 刈刃部への巻き付き。		

付 表

1. 電気配線図



2. 主な消耗部品と付属工具とオプション

1. 消耗部品

	No.	品 番	名 称	個数 / 台
エンジン	1	KE41005 AA	スパークプラグ (BPR5ES)	1
	2	PM80 2210 000	ワイヤ (エンジンコントロール)	1
	3	KS20066AD 010	スタータロープ	1
	4	KA90102AA	スクリーン	1
本	5	CM80 0205 000	SB42 W600 または LB42AG4A	1
	6	CM80 0206 001	SB54 W1000 または LB54AG10A	1
	7	CM80 3210 000	SB42 W800 または LB42AG8A	1
	8	1469 1335 000	刈刃	46
	9	CM80 3108 001	ボルト	23
	10	A353 0110 000	ゆるみ止めナット	23
	11	CM80 3312 000	ボウゴカバー A	4
	12	CM80 3314 000	ボウゴカバー B L	1
	13	CM80 3313 000	ボウゴカバー B R	1
	14	CM80 3324 000	ボウゴカバー C L	1
	15	CM80 3323 000	ボウゴカバー C R	1
	16	PM80 2111 000	ソウコウワイヤ	1
	17	PM80 2121 000	ブレーキワイヤ (駐車ブレーキ用)	1
	18	PM80 2156 000	カリハワイヤ	1
	19	PM80 2158 001	ブレーキワイヤ (刈刃ブレーキ用)	1
	20	PM80 2205 000	サイドクラッチワイヤ	2
機	21	1924 2107 000	キャップナット (φ 6)	4
	22	0562 1108 050	クレビスピン (前輪固定用)	2
	23	0521 0108 000	スナップピン	2
	24	1333 1701 001	ブレーキアセンブリ	1
	25	8902 1111 000	クローラ	2
	26	CM80 0613 000	バッテリー	1
	27	CM80 0621 001	スイッチ (NC)	1
	28	CM80 0622 001	スイッチ (NO)	1
	29	PM80 1616 000	ブレーキアッシ	1
	30	PM80 3419 000	ゼンリン	1
	31	CM80 1358 000	ガイド (クローラ)	2

付表

2. 付属工具

No.	品番	名称	個数/台
1	1428 2502 000	スパナ (10 × 12)	1
2	1428 2503 000	I ボックスレンチ	1
3	1428 2504 000	ドライバー	1

3. オプション

No.	品番	名称	個数/台
1	5116 1517 000	消化器	1
2		ボルト (M8 × 16)	2
3		ナット (M8)	2